

令和元年度国有林モニター会議（現地視察）開催

令和元年9月18日（水）、モニター14名に御参加いただき、木曽森林管理署南木曽支署管内にて国有林モニター会議（現地視察）を開催しました。

当日はあいにくの曇り空で、雨が降ったりやんだりの天気でしたが、まずは南木曽町にある「三殿土場」（国有林から搬出した丸太を集積している場所）において、総務企画部長の挨拶の後、担当職員から木曽谷における林業の歴史、丸太の樹種や品質と価格、

国有林材ブランド化の取組（「㊦㊧木曽ひのき」）等について説明を受けました。モニターの皆様からは、特に丸太の価格について多くの質問が挙がり、関心の高さが伺えました。



三殿土場
説明に熱心に耳を傾ける皆様

その後、同町内にある南木曽支署庁舎に移動し、支署長より、管内概要や木材をふんだんに利用した新庁舎、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献する木質ペレットボイラー等について説明を受け、実際に見て回りました。モニターの皆様からは、ペレットは1日でどのくらい消費するのか、災害時の停電対策としてボイラー起動のための電力の発電手段を自前で確保すべきではないか、といった御質問、御意見をいただきました。

南木曽支署庁舎
ペレットボイラーを視察する皆様



午後は、「国有林おさんぽMAP」に掲載している蘭美林自然探勝コースにて、森林散策とコグニサイズを体験しました。森林散策では、担当職員からのクイズに答えたり解説を聞いたりしながら、森林の中の歩道を歩きました。コグニサイズとは、認知症予防に効果があるとされているプログラムで、身体と頭脳の両方に適度な負荷をかけることがポイントです。今回は5人一組になって、少し早いペースで歩きながら、順番に数字を言ったりしりとりをしたりという内容で実施しました。たまに間違えたりしつつ、参加者の笑顔と笑い声に包まれた楽しい体験となりました。

（コグニサイズの詳細については、国立研究開発法人国立長寿医療研究センターHP「認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」」<https://www.ncgg.go.jp/kenshu/kenshu/27-4.html>をご覧ください。）



蘭美林自然探勝コース
クイズに答える皆様（上）
笑顔でコグニサイズに取り組む皆様（右）



その後は、国有林の製品生産事業の現場でヘリコプターによる丸太の集材作業を見学する予定でしたが、視界不良でフライト中止となっていたため、請負事業者である有限会社ヤマカ木材の勝野常務による事業内容の説明を受けました。ヘリ集材の見学を楽しみにしていた参加者が多く、実際に見ることができなかったことが大変残念でしたが、燃料を無駄にせず効率的に集材するために、人数をかけてスピーディに作業し、大径木を運ぶタイミングを工夫していることなど、事業者から具体的な話を直接聞くことができました。

事業者の説明に熱心に耳を傾ける皆様



最後に、道の駅賤母に隣接する国有林に設定している「賤母生物群集保護林」について、案内看板を見ながら、植生が温帯林から暖帯林へ移り変わっていく場所として重要であり、人の手を加えず自然に委ねていること等、貴重な生物群集の保護について担当職員から説明を受けました。

モニターの皆様からは、国有林の資料を読んで内容をイメージしていたが、現場に行き実際に見る、体験することで初めてわかることが多く、国有林の視察を通じて、国有林野事業についての理解が深まった、といった声をいただきました。

今回の視察を通してモニターの皆様からいただいた御意見、御感想について、今後の国有林野の管理経営に活かすよう努めてまいります。